

スーパー連携大学院プログラム履修要覧

1. 教育目的

スーパー連携大学院プログラムは、産業界、行政機関、大学のそれぞれが個別に実施して来た人材育成を大学院教育システムに取り入れ、それらの特色を活かした連携により実施するもので、連携する大学での集合教育や共同研究ベースの学位研究指導を行うことによって、グローバル化社会においてリーダーシップを発揮し、広く産業界や行政にわたってイノベーションによる価値の創造を担うことができる「志」の高い人材を育成することを目的としている。

アドミッション・ポリシー

スーパー連携大学院では、産業界や行政の広い分野でイノベーションの担い手として活躍する志を持った学生を広く国内外から受け入れる。

カリキュラムポリシー

スーパー連携大学院プログラムは次の「7つの志」を育成する。

1. ベンチャー精神旺盛で自立を目指す。
2. 実社会のさまざまな分野で創造的能力を発揮し、活躍する。
3. 専門分野への深い造詣の上にマネジメント力を兼ね備える。
4. 未来志向の先見性と革新性を有する。
5. 質の高いコミュニケーション力を発揮する。
6. リーダーとして尊敬される深い教養を備える。
7. 国際的感覚を備え、世界で活躍する

ディプロマポリシー

スーパー連携大学院プログラムの受講生は、次項の学修・教育目標を達成し、かつ所属する大学院から学位を授与される時、当該学位に対応する以下のサーティフィケートを授与する。

- ① イノベーション修士 (Innovative Master) サーティフィケート (博士前期課程修了者)
- ② イノベーション博士 (Innovative PhD) サーティフィケート (博士後期課程修了者)

2. 学修・教育目標

スーパー連携大学院プログラムは、学修・教育目標として下記のA～Hを設定し、これらの学修・教育目標の達成のために修得すべき知識と能力を明確にした科目群を配置している。学修・教育目標と科目群との関係を表1に示す。

- A. <志> “志”教育により、旺盛なベンチャー精神を養うと共に、専門家としての高い志と自立性を涵養する。
- B. <専門知識・能力> 質の保証されたそれぞれの分野の専門教育により、応用力のある確実な専門知識・能力を習得し、専門的造詣を深める。
- C. <実践力・マネジメント力> 実践力育成教育、MO T教育、課題解決力育成教育、インターンシップ、海外研修等により、当該分野の専門家としての実践力・マネジメント力を身につける。
- D. <創造性> 応用力のある確実な基礎知識と専門知識・能力に基づいてプロジェクト等の実践的能力を身につけた上で、先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究を遂行することにより、実社会のさまざまな分野で活躍しうる創造的課題解決能力を身につける。
- E. <先見性・革新性> 先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究により、未来指向の先見性と革新性を身につける。

- F. <コミュニケーション力> “志” 育成教育，課題解決力育成，インターンシップ，海外研修等により，日本語および外国語による論理的文章力をはじめ，ディベート力，プレゼンテーション力など，総合的に質の高いコミュニケーション能力とチームワーク力を身につける。
- G. <倫理・教養> 実践力育成教育，MOT教育，課題解決力育成教育および自己啓発により，リーダーとして尊敬される倫理観と深い教養を身につける。
- H. <国際性・グローバルマインド> 海外研修，インターンシップ，国際会議参加，英語力研鑽などを通して，世界で活躍できる国際的感覚と視野を身につけ，あわせて“志” 育成教育，地域学・国際学などを通じてグローバルマインドを涵養する。

表1 学修・教育目標と科目群の関係

科目群		学修・教育目標							
		A 志	B 専門知識	C 実践力・マネジメント力	D 創造性	E 先見性・革新性	F コミュニケーション力	G 倫理・教養	H 国際性・グローバルマインド
“志” 育成	“志” 科目群	◎		○		○	◎	○	○
地域学・国際学	地域学科目群			○				○	◎
	国際学科目群			○			○	○	◎
イノベーション創出力育成	実践力育成科目群	○	○	◎	○		○	○	○
	MOT科目群			◎				◎	
問題解決力育成	PBL科目群		○	◎	◎	○	◎	◎	○
短期インターンシップ			○	○			◎		
共同研究長期インターンシップ・海外研修		○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
専門知識・能力	専門科目群		◎	○			○		
共同研究型サーティフィケート研究			◎	◎	◎	◎	○		

◎：対応，○：関連

3. 教育プログラム

3-1 スーパー連携大学院プログラムとは

スーパー連携大学院プログラムは，広く実社会でイノベーションを担う志の高い人材を育成するプログラムであり，スーパー連携大学院コンソーシアムの正会員大学の大学院博士前期課程及び大学院博士後期課程の入学者の中から希望する学生を募って，プログラム受講生とする。

イノベーション修士サーティフィケートを修得した受講生は、本プログラムにおける博士後期課程への継続が認められる。

また、本プログラムでは、博士前期課程（2年）と博士後期課程（3年）の5年間を標準修業年限とするが、イノベーション修士サーティフィケートを修得し、就職した後に博士後期課程に入学する場合も本プログラムを継続して受講することができる。

3-2 スーパー連携大学院プログラムと所属大学院との関係

スーパー連携大学院プログラム受講生は、所属大学院研究科・専攻の教育科目を履修すると共に、スーパー連携大学院プログラムが提供する教育科目を履修する。スーパー連携大学院プログラムの修了要件と所属大学院研究科・専攻の修了要件は、専門科目については共通する部分が多いが、スーパー連携大学院プログラムではそれらに加えて「志」育成、「地域学・国際学」、「イノベーション創出力育成」、「問題解決力育成」などの修得を条件としている。これらの関係を、5年間の教育プログラムの年次計画として図1に示す。

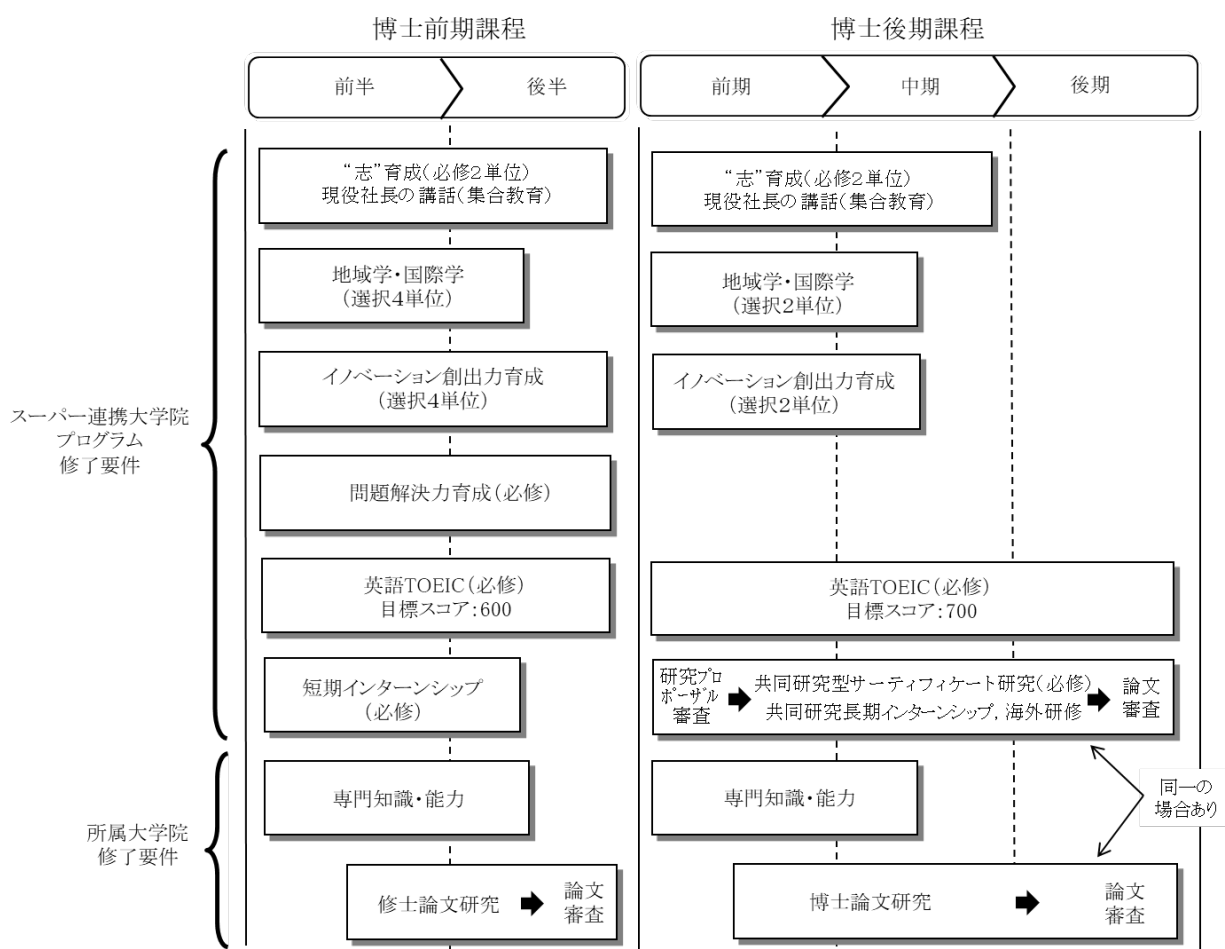


図1 年次計画

3-3 教育方法

- ・スーパー連携大学コンソーシアム参加大学の単位互換科目によるカリキュラムによって、イノベーション修士サーティフィケート、イノベーション博士サーティフィケートの授与に必要な条件ならびに所属大学院学位授与の条件の双方に合致する教育が行われる。
- ・単位互換科目は、eラーニングシステムによる遠隔でのライブ受講を可能とする。これを利用することによりオンデマンド受講による復習や、反転授業も可能である。
- ・講義では討論の時間が設けられ、対話型の授業が進められるので積極的に発言することが求められる。

3-4 成績評価

(1) 評価方法

- ・講義を主とする科目においては、筆記試験、課題に対するレポート等により評価する。実践を主とする科目においては、活動の過程、結果、報告書等により評価する。

(2) 評価基準

- ・成績評価は60点以上を合格とし、学修目標の達成度はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）として記載する。
- ・S、A、B、Cそれぞれに対応する評価基準は、各科目のシラバスにて示される。

(3) 成績指標値（GPA）の算出

- ・成績指標値の算出は以下の方法によって行う。
 - ① 評価点は、S=4、A=3、B=2、C=1
 - ② 取得点の計算は、当該科目で得た 評価点×単位数。
 - ③ 算出は、 $GPA = (\text{取得点の合計}) / (\text{取得した科目の単位数の合計})$

4. 共同研究の実施

スーパー連携大学院プログラムの受講生は、自身が発案した研究テーマや企業からの研究テーマ（共同研究）を、大学の指導教員だけでなく企業の研究者の指導を受けながら研究することで、アカデミックな視点に加えて企業の目標設定、進捗管理、評価方法等を学ぶ。

5. プログラム履修規程

5-1 科目等の履修

スーパー連携大学院プログラムでは、博士前期課程と博士後期課程それぞれのサーティフィケートの取得を目指して、受講生はメンター（指導教員、教務担当等）と相談し、毎年期首に所属大学院の履修科目を含め総合的に履修計画を立てるものとする。

各科目群の履修は原則として以下のように行う。

<スーパー連携大学院プログラムの規程による履修>

- (1) “志” 育成育成，地域学・国際学，イノベーション創出力育成：該当する科目群の中から所定の単位数の科目を履修する。
- (2) 問題解決力育成：所属大学院のPBL科目を1科目以上履修する。
- (3) 英語：TOEICを受験する（年1回以上）。博士前期課程で600点以上，博士後期課程で700点以上取得することを目標とする。
- (4) 短期インターンシップ：博士前期課程の期間に所属大学の規程または自由応募によって行う。
- (5) 海外研修：博士後期課程の期間に行う。
- (6) 共同研究長期インターンシップ：博士後期課程の期間に企業等との共同研究等を行う。
- (7) 共同研究型サーティフィケート研究：長期インターンシップによる共同研究を行い，イノベーション博士論文をまとめる（所属大学院の博士論文と同一の場合もあり）。

<所属大学院の規程による履修>

- (1) 専門知識・能力：所属大学院における専門科目群およびスーパー連携大学院プログラムの専門科目群の中から履修する。
- (2) 修士論文：所属大学院の規程に従い修士論文をまとめる。
- (3) 博士論文：所属大学院の規程に従い博士論文をまとめる。

5-2 科目群の履修方法

- (1) 各科目群の履修は，下記の手続きを必要とする。

- ・所属大学院に設置されている科目は、所属大学院の手続きに従い履修登録を行う。
 - ・所属大学院以外のプログラム参加大学に設置されている科目は、特別聴講学生として履修登録を行う。
- (2) 各科目群の履修は、原則として下記の方法で行う。
- ・所属大学院に設置されている科目は、対面で受講する。
 - ・所属大学院以外のプログラム参加大学に設置されている科目は、eラーニングによるライブ受講を原則とする。
 - ・同時間帯に行われる科目の講義または講義をライブで受講できない明確な理由がある場合はオンデマンド受講を認める。
- (3) 海外研修は、下記の実施要領で行う。

内 容	海外の大学、研究機関、企業等での研修とする。 本人の国際会議での発表、本人の研究に関連する海外研究室等の訪問とそこでの議論などを組み合わせて実施することも可能とする。ただし、語学研修は含まない。
期 間	原則として連続する4週間以上
実施手順	①指導教員と研修計画を立て、実施計画(所属大学や外部留学支援制度の応募計画を含む)をスーパー連携大学コンソーシアムに提出する。 ②指導教員と相談し、所属大学の「留学支援」「海外インターンシップ」などの支援制度やIAESTE等の外部留学支援制度に応募する。 ③上記の支援制度を利用できなかった場合は、スーパー連携大学コンソーシアムに支援を請求する。 ④終了後実施報告書をスーパー連携大学コンソーシアムに提出する。
費 用	所属大学や外部留学支援制度を利用できなかった場合は、スーパー連携大学コンソーシアムが別に定める交通費を補助する(海外研修補助金申請要項)。

- (4) 共同研究長期インターンシップは、下記の実施要領で行う。

内 容	共同研究先あるいは関連機関等で共同研究長期インターンシップを実施する。 共同研究長期インターンシップを海外で行う場合には、その実施計画の中に「海外研修」を含めることができる。
期 間	概ね3か月以上(目安:週の半数程度以上の滞在が計12週以上となること)。
実施手順	①本人、指導教員、共同研究先担当で相談の上実施計画を作成し、スーパー連携大学コンソーシアムに提出する。 ②終了後、実施報告書をスーパー連携大学コンソーシアムに提出する。
費 用	共同研究先が滞在費や交通費等を負担することを基本とするが、先方が制度を持たない場合は、スーパー連携大学コンソーシアムが別に定める交通費を補助する(共同研究長期インターンシップ補助金申請要項)。

- (5) 英語：TOEICのスコアを博士前期課程で600点以上、博士後期課程で700点以上取得することを目標として、TOEICを毎年1回以上受験し、達成度を確認すること。スコア達成のた

めに各地域で年数回実施される試験日に合わせ計画的に受験する。
 また、受験料が所属大学で補助されない場合、年1回分の受験料はスーパー連携大学コンソーシアムが補助する。その場合、証明書類として受験料の領収書とスコアの公式認定証(写)を提出する。

5-3 受講の取り止め

病気その他やむを得ない事情により受講を取りやめようとするときは、指導教員の承認を得た上で、遅滞なく報告すること。

6. プログラム修了要件

6-1 博士前期課程

博士前期課程では、表2に示す科目の単位を取得し、所属大学院から修士学位が授与されること。また、スーパー連携大学院プログラムの科目群の成績指標値(GPA)は3.0/4.0以上を目指す。

表2 博士前期課程

科目群		受講形式	所要単位
“志”育成	必修	所属大学受講1科目, 他大学受講1科目	2単位以上
地域学・国際学	選択	e-ラーニングまたは対面受講	4単位以上
イノベーション創出力育成	選択	e-ラーニングまたは対面受講	4単位以上
問題解決力育成	必修	所属大学受講1科目	—
短期インターンシップ	必修	所属大学のインターンシップ制度を利用	1単位以上 *1
英語 (TOEIC 受験)	必修	年1回以上	600点目標
取得単位合計			11単位以上

*1 所属大学のインターンシップ制度による単位を付与する。

所属大学にインターンシップ制度がない場合または自由応募で実施する場合は、実施時間により単位を付与する。実施時間には、インターンシップに付随する研修会、報告会等の時間も含むものとする。

インターンシップの取得単位は成績指標値(GPA)の算出には使用しない。

45時間以上 90時間未満	1単位
90時間以上 180時間未満	2単位
180時間以上	4単位

6-2 博士後期課程

博士後期課程では、表3に示す科目の単位を取得し、それらの成績指標値(GPA)が3.0/4.0以上を目指す。

表3 博士後期課程

科目群		受講形式	所要単位
“志” 育成	必修	対面受講	1 単位以上
地域学・国際学	選択	e-ラーニングまたは対面受講	2 単位以上
イノベーション創出力育成	選択	e-ラーニングまたは対面受講	2 単位以上
問題解決力育成	必修	共同研究型サーティフィケート研究	—
共同研究長期インターンシップ	必修	共同研究の実施 *2	—
海外研修	必修	国際会議参加・発表，研究訪問，等	—
英語（TOEIC 受験）	必修	年 1 回以上	700 点目標
取得単位合計			5 単位以上

*2 共同研究長期インターンシップの終了後，インターンシップ先より評価を受ける。

6-3 短期修了

標準年限よりも短期間でそれぞれの修了要件を満たした場合には，所定の修了の場合と同様に該当するサーティフィケートが授与されるものとする。

7. サーティフィケートの授与

7-1 サーティフィケート授与の要件

サーティフィケート	授与要件
イノベーション修士サーティフィケート	博士前期課程を修了した者
イノベーション博士サーティフィケート	博士後期課程を修了した者

7-2 サーティフィケート授与の審査

サーティフィケート授与審査は，以下の履修要件の取得状況を総合的に評価する。

- (1) 科目群の履修状況
- (2) 所定科目の成績指標値(GPA)
- (3) 短期インターンシップの実施状況（イノベーション修士サーティフィケートのみ）
- (4) 共同研究長期インターンシップ（イノベーション博士サーティフィケートのみ）
- (5) 海外研修（イノベーション博士サーティフィケートのみ）
- (6) 英語の学力達成度

(7) 学修・教育目標達成度

(8) サーティフィケート研究論文※（イノベーション博士サーティフィケートのみ）

※サーティフィケート研究論文は、スーパー連携大学コンソーシアムが設置する審査委員会において審査される。

8. 受講生支援

8-1 生活支援

受講生の生活支援全般は、基本的には受講生が所属する大学の担当部署が行う。また、スーパー連携大学院プログラムを受講する博士後期課程の受講生に対し、修学に必要な経済的支援として給付型の奨学金を支給する(詳細は別に定める)。

8-2 就職支援

スーパー連携大学コンソーシアムに参加している企業等を含めて就職支援を行う。

9. スーパー連携大学院プログラムの運営組織

スーパー連携大学院プログラムは、会員となっている大学、企業および行政機関等から組織された一般社団法人スーパー連携大学コンソーシアムによって運営される。

会員の一覧はホームページ（ <http://www.super-daigakuin.jp/memberlist.html> ）に掲載。